



## 訪問客に人気の宇津峡



先月と今月とで、市内からの訪問客を5組9名対応させていただき、京北を案内させていただきました。

六つの地域をまんべんなく廻り、都合がつくときには、日ごろ親しくさせていただいている方にもお会いいただいて、京北の話をしていただいたりしています。

京北にはたくさんの名所がありますが、訪問客の方々に人気があったのは、快晴の日の宇津峡でした。太陽の光に照らされて青々とした山並みは壮大で、自然に囲まれている感じがして、都会に住む人たちにはとても気持ちがいいそうです。僕も本当にそう思います。上の写真は案内の時のもので、この緑が僕は大好きです。

## 二条城シンポジウム

9月9日に二条城において「魁！山国隊プロジェクト」の一環で「山国隊シンポジウム」が開催されました。まだ台風の被害で停電が続く地区もある大変な時期ではありましたが、多数の



京北からのご参加をいただきまして、ありがとうございました。今後さらに京北の伝統が広まればよいと思います。

## 合同ふれあいサロン@黒田

9月27日に黒田基幹集落センターで開かれたふれあいサロンに参加させていただきました。



この日は敬老の集いでもあり、地元のご年配の方々がたくさん集まっておられました。催し物は、山国のマジシャン西山さんの手品と、大正琴による唱歌の演奏でした。あの手品のうどんは一体どこから出てきたんだろう……？

手品や演奏をきっかけとして参加者同士で「昔はこうだったよね」と思い出を共有したり、「まだまだ元気でいかなきゃね」と声を掛け合ったりされていたのを見て、サロンが単なる娯楽ではない、つながりの場所になっていることを改めて確認させていただきました。

## 冬に備えて……!

京北に来て初めての冬を迎えようとしています。ずっと住んでいた大阪は雪すら滅多に降らないので、これからの季節に備えて、対策は万全にしておくとは思いました。

そこで、電池でも点けることができるストーブを買うことにしました。京北に住む方々からのアドバイスです。これで災害で停電しても、凍えることはありません。これで冬を乗り切ります！



## 今月の1冊

北川フラム『ひらく美術：地域と人間のつながりを取り戻す』ちくま新書2015年

この本は、アートディレクターの北川フラムさんが、自身が陣頭指揮を執った〈大地の芸術祭 越後妻有トリエンナーレ〉での経験を振り返って、「芸術」を通じて地方の町が元気になっていく様子や、そのためにどのように地域住民や行政と向き合ってきたかについて書いている本です。

芸術祭は、いろいろな価値観を表現した作品が並び、また関わる人も地域の外から、中には外国からも応援が来るといふ、まさに「その町が、今まで出会ってこなかった物事と出会う」きっかけとして機能しているといえます。生産性と均一化に価値がおかれてきた20世紀日本の中で、存在することそれ自体、人と違っていることそのものにまず価値がある、ということを伝えてくれる芸術祭は、近年、地域に新しい可能性を気づかせてくれるものとして注目を集めてきました。この本はそんな芸術祭に全力で取り組んだ、北川フラムさんの「生き方＝働き方」の本でもあります。